



BY KATHY LIEN

今日のFXマーケット 01.26.12
(2012年1月27日発行)

FX: 景気の回復に陰り

FRBによる緩和政策継続の確約を受け、欧州と北米市場を通して米ドルは軟調推移を余儀なくされたが、今後の動向は明日発表されるGDPにかかっている。米国経済は第四四半期に3%成長したものと予想されるが、仮にそうなれば、ここ一年以上で最高のペースである。最近の労働市場の改善で消費者の需要も高まってはいるものの、第四四半期は消費支出の平均伸び率が第三四半期を下回ったため、当社はGDPが予想を下回ることを警戒している。もし当社の懸念が現実化すれば、投資家にとってはドル売りの理由が増える一方で、リスク資産の軽減という課題も発生する。EUR/USDが堅調地合いを維持できなかった最大の原因は、米国株が日中の高値から反落し、その原因が、後で発表された米経済指標が最初に発表されたものほど良くなかったからであった。発表と同時に米ドルは下落してユーロは上昇したが、間もなく投資家は、米国経済の不調が、米国以外の世界にとっても同様に悪材料であることに気づいたようだ。北米市場の引けにかけて米ドルが回復した原因がここにある。

新築住宅販売は2.2%減少した。前月の数値の上方修正を考慮しても、大幅な減少である。住宅市場は米国経済の中でもひととき低迷が顕著で、FRBはその窮状を懸念している。景気先行指標は0.4%の上昇となって事前予測を下回ったが、それでも上昇は上昇である。新規失業保険申請件数は前週の356千人から377千人へと増加した。事前予測を上回ったものの、絶対数が400千人を下回り続ける限り、労働市場が改善傾向にあることは確かである。受給総数は前週の346.6万人から355.4万人へ増加した。耐久年数3年以上の耐久財受注額は先月3%増加し、この冬も消費が活発であったことを伺わせた。通常変動の激しい輸送機器を除いた数値も2.1%増加したが、これは9カ月来の高水準である。FRBは景気の「重大な下振れリスク」を懸念しているが、最近の経済指標を見る限り、成長の速度こそ緩慢とはいえ、米国経済の各所で改善が進行中である。

EUR: 欧州の混迷にもかかわらず堅調推移が続く

ドイツで消費者信頼感指数が改善したことで、今年欧州がリセッション入りする懸念が薄れ、ユーロは堅調に推移した。独市場調査会社GfKによれば、失業率の低さが5カ月連続で消費者センチメントを高め、2月にかけても消費者心理の一層の高揚が期待できる。消費者に限らず、今月前半には投資家と企業のセンチメント改善が報告された。ドイツ一国が他のユーロ圏諸国と軌道を異にしつつあることを割り引いたとしても、これらの調査結果は、ユーロ圏において完全に信頼感が失われていないことを示している。ユーロ圏最大の経済国として、ドイツは消費者の財布のひもを握っている。他国に緊縮財政を強いながら、自身はユーロ安の恩恵を享受している。ポルトガルで国債利回りが急上昇したことや、ギリシャ債務問題をめぐるECBの内部分裂など、ユーロにとっての悪材料の頻出にもかかわらず、EUR/USDは依然堅調推移を続けている。EU首脳は依然、IIF(国際金融協会)とギリシャが自ら問題を解決することを求めている。EU首脳会議では、ギリシャに関して特別な協議を行う予定はないとの発表もあった。債権団が利払いの減額に応じることで、ギリシャPSI交渉が妥結間近との観測も出始めたようだ。これまで幾度も「噂話」が現実化せずに立ち消えた教訓から、当社はその信憑性には懐疑的である。EUR/USDは50日移動平均線を上に抜けたが、さらに値を伸ばすためには1.32を突破しなければならない。ここは以前のサポートがレジスタンスに転換した水準である。

外国為替保証金取引や、CFD、デリバティブその他のレバレッジ取引には高いレベルのリスクが潜在しており、預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、全てのお客様に適用している投資商品とは言えません。本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

弊社及び著者は投資サービス、法律サービス、会計・税制サービスあるいはその他のプロフェッショナル・サービスは提供しておらず、そのような必要が生じた際は適切なプロフェッショナルからサービスの提供を受けてください。同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp ©2012 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複製・複製・転載を禁ず。GD08J.006.011212